opusdei.org

47. イエスは本当に 教会を建てることを 望んだのですか?

イエスの教えは、まずもって イスラエルに向けられたもの です。イエスは自分に従う 人々に次のように語っている 通りです。

2014/02/04

「わたしは、イスラエルの家を失った羊のところにしか遣わされていない」(マルコ15,24)。イエスは活動の最初から皆に対して回心を呼びか

けていました。「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」(マルコ1,15)。しかしながら、その個人的な回心への呼びかけは個人主義者的なものではなったか、人々を救うためにおいでになった神が、離散した人々を神の民としてひとつに集めることをつねに目指していたと考えるべきです。

神がその民に対してなされた約束を 成就するあたり、イエスが全人類を 対象にした「契約」の民として人々 を集める意図をもっていたことは明 らかです。その証拠は、ペトロを筆 頭とする12人の使徒団を設立したこ とです。「12使徒の名前は次の通り です、最初にペトロと呼ばれるシモ ンとその兄弟のアンデレ、ゼベダイ の子のヤコブとその兄弟のヨハネ、 フィリポとバルトロマイ、トマスと 徴税人のマタイ、アルファイの子の ヤコブとタダイ、熱心党のシモン、 それにイエスを裏切ったイスカリオ テノのユダである」(マタイ10,1-4;参照マルコ3,13-16;ルカ6,12-16)(質問「12人の使徒とは誰ですか」を参照)。12という数字はイスラエルの12部族と関連しており、神の聖なる民をイエスが呼び集めるというイエスの意図を明らかにしています。彼ら12使徒は新しいエルサレムなの土台なのです(ヨハネの黙示録21.12-14参照)。

さらに、イエスの意図を示すもう一 つのしるしは、イエスが最後の晩餐 で制定した聖体を12使徒に託したこ とです(質問「最後の晩餐で何が起 きましたか | を参照)。このように して、イエスは、ご自分が始め終り のときに完成する教会の中で、その 頭となる12使徒はしるしとなり道具 となる責任を担っていることを、全 教会に対してお示しになったので す。たしかに、最後の晩餐の中で秘 跡的に先取りされ、また、教会が聖 体の秘跡を挙行するたびに現在化さ

れる十字架上における自己奉献は、 イエスご自身との交わりのうちに一 致し、イエスの始めた御業のしる し・道具となる共同体を作り上げま す。従って教会は、我々の救いのた めに行れたキリストの全面的な奉献 によって生まれましたが、それは聖 体において先取りされ、十字架にお いて完成されました。

12使徒の存在は、教会の存在と使命に対するイエスの意志の最も明白なしるしであり、キリストと教会の間に何らの対立のないことの証拠でもあります。教会を構成する人間に罪があるにも拘わらず、キリストと教会は不可分のものです。

使徒たちは自分たちの使命を、イエスから受け継いだ通りに、永続させなければならないことを自覚していました。継続すべきこととしてイエスから受けたからです。使徒言行録にも記されているとおり、使徒たち

は自分たちに託された使命が、自分たちの死後も継続されるように後者を残すことに心を砕きました。彼者を通して正当な牧者に担職化された共同体をはとに組織化された共同体をはといるなりのうちに、それはその交わりの中で御父が与える救いを体験するよう召されています。

聖パウロの手紙の中で、教会を構成する人々について、次のように考えられています。「聖なる民に属する者、神の家族であり、使徒や預言者という土台の上に建てられています。そのかなめ石はキリスト・イエスご自身です」(エフェソの教会への手紙2,19-20)。

イエスが打ち立てたという事実と、 その事実においてイエスが自らをお 与えになるという現実を無視すれ ば、イエスに出会うことはできませ ん。イエスとその教会の間には、不可分で深く神秘的な連続性があるのです。そのおかげでキリストは今日もご自分の民の中に現存するのです。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/47iesuhaben-dang-nijiao-hui-wojianterukotowowang-ndanodesuka/ (2025/12/11)